

教育施策について

新風会 岡田康弘



質問 ↓ 教育長就任から半年近く経過したが、その実践と実行された施策の内容、今後の予定は。

答弁 ↓ 子供たちの学力の向上や豊かな人間性、社会性の育成を目指し、教育

委員会各課、関係部局等と連携を図り推進しているところであり、指導主事を派遣するなど、学校と一体となつて取り組みを進めており、学力調査結果の検証とそれを踏まえた改善策や中学校への武道指導の円滑な導入、郷土を学ぶ学習等を学校、家庭、地域と連携し、充実させる。

質問 ↓ 国旗・国歌の扱いについて、どのような指導をされたのか。

答弁 ↓ 卒業式、入学式の事前の児童生徒への歌唱指導の充実を図る。全校職員が国歌を斉唱することについて六月議会以降、校長会に話している。

生涯学習人材バンクに参加・協力を

市民と歩む会 黒見節子



質問 ↓ 特別支援学級児童が通常の学級と一緒に学習する時は。

答弁 ↓ 共に活動する「交流及び共同学習」は人間性を育成する上で重要。市内小中学校に特別支援加配教員や教育

支援員を配置し、研修も実施。

質問 ↓ 前回の組織機構改革は。

答弁 ↓ 各部署での仕事の進め方、連携の強化や事務改善に繋がった。市民の満足度や重要度を調査する市民アンケートの研究をしていく。

質問 ↓ 公民館での生涯学習は。

答弁 ↓ 二十二の公民館で特色ある活動や、地域と学校の連携を進めている。社会教育主事の活用を考慮したい。津山市生涯学習人材バンクの作成予定で、社会教育主事の任用資格者、様々な資格や特技をお持ちの方に、参加協力頂けるよう検討したい。

すべての子供に、基礎学力をつける

日本共産党津山市議団 久永良一



質問 ↓ すべての子供たちに基礎的な学力をつけることは、学校教育の基本任務である。しかし、現実には、勉強に「つまずき」「落ちこぼれた」ままの子供が増え、学力格差が広がっている。

学校に行つて勉強するのが楽しくなくしてはいけない。それには、①つまずきを早く発見し、その子供に学校の先生以外の人が特別に教える②学級規模を三十人以下にして、一人一人がよく見えるようにする③学級規模を少なくし、小グループになつて子供同士で教えあいを行う。とりあえず小学校一年生から三年生を、三十人学級にすべきである。

市長 ↓ 議員の質問の趣旨を十分勉強して頑張る。

教育長 ↓ 市長の力強い決意表明があったので期待している。

鶴山塾の相談内容は「弁当の日」創設は

津山新星会議 倉持照憲



質問 ↓ 鶴山塾の教育、子育て相談の内容と傾向は。「弁当の日」創設は。中山間第三期対策に取り組む中、農業、農村構造の何が見えたのか。

答弁 ↓ 鶴山塾への相談は、昨年度、面接

が二百四件、電話は百三件。面接の約五割が、学校へ行きづらい、欠席が続いている不登校、約三割がいじめ、トラブル、約一割が社会生活について。傾向は、対人関係の苦しさから、学校集団への不適応を起こすケースが多い。更に食育を進め、子どもが「弁当を作ってみよう」と言い出すよう食指導をする。中山間では農地を守つていく取り組みを積極的に検討し、活性化につながっている地域があった。一方、高齢化により農地を守る負担も大きくなり、世話人、リーダーの確保が課題でもある。